

人権教育推進協議会委員のご意見より(令和5年度)

- ・昨今の社会状況を鑑みると、子どもたちに関わる様々な問題や事件がある。これらは**自尊感情**に関わることも多く、アンケートの結果を注視していきたい。
- ・近年は、**多様な子どもたち**が保育園・幼稚園や学校に在籍している現状があり、社会でも同様である。
- ・人権教育では、(人権課題に係る)**知識について学びながら、それを活用して解決していく**力が必要になってくる。

第4期高知県教育振興基本計画の基本目標(令和6年3月)

- 「豊かな心の育成と、**多様性・包摂性を尊重する教育の推進**」
- 社会の中で**多様な人々と互いに尊重し合い、協働し**、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、**自尊感情**、夢や志、他者への思いやりや**人権意識**、規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む。

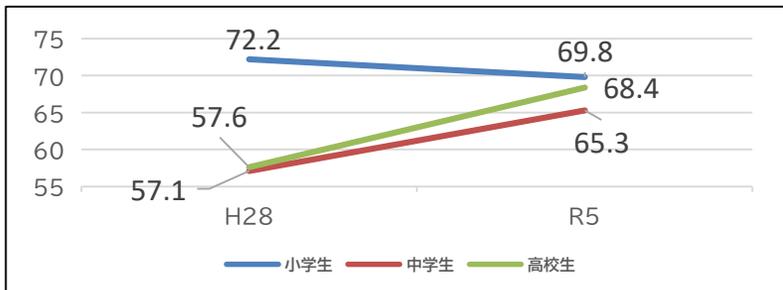
人権教育に関するアンケート(高知県)結果の抜粋

表1: 「自分にはよいところがあると思うか」への肯定的回答割合
(高知県: R5人権教育に関するアンケート 全国: R5全国学力学習状況調査)

	小学生	中学生	高校生
高知県	82.5%	81.6%	83.1%
全国	83.5%	80.0%	

- 肯定的回答は全校種で8割程度であり、全国平均と比較すると同程度である。
- 小学生の肯定的回答は全国の平均値を1ポイント下回っている。

図: 「自分のことが好きですか」への肯定的回答割合の校種別の経年変化(単位: %) (R5人権教育に関するアンケート)



- 「自分のことが好きですか」への肯定的回答は、中高生は上昇。
- 小学生の肯定的回答はゆるやかに減少(2.4ポイント)。

表2: 人権課題に対して、知的理解に基づいて適切に判断できている児童生徒の割合(抜粋) R5人権教育に関するアンケート)

	小学生	中学生	高校生
同和問題	53.6%	45.9%	47.6%
女性	70.0%	71.0%	72.8%
高齢者	91.2%	87.5%	86.3%
障害者	81.8%	73.6%	79.7%
HIV感染者・ハンセン病元患者	調査なし	55.4%	58.5%

- 児童生徒は、自身の生活体験や人権課題に関する学習経験を含む学校教育活動全体で学習した人権に関する知識や人権感覚に基づいて、人権問題に対応している。
- 全ての人権課題に対して、必ずしも十分に知的理解に基づいた判断ができていない。

表3: 個別の人権課題を学習したと認識している児童生徒の割合(抜粋)【R5人権教育に関するアンケート】

	小学生	中学生	高校生
同和問題	23.1%	38.6%	25.8%
女性	51.9%	44.3%	50.2%
高齢者	29.3%	33.7%	23.8%
障害者	49.0%	50.0%	32.8%
外国人	27.2%	27.2%	16.2%
ハンセン病元患者	3.9%	13.6%	7.9%
HIV感染者・エイズ患者	3.3%	11.0%	43.3%
インターネット上の人権侵害	58.1%	46.6%	37.1%
犯罪被害者等	18.1%	17.4%	13.2%
災害と人権	36.9%	36.2%	18.0%
性的指向・性自認	43.4%	29.9%	52.0%

- 児童生徒の「学習した」という認識が低い(25%未満)人権課題もあり、個別の人権課題への知的理解の深化を図っていく必要がある。

向
今
後
に

- ・子どもたち一人一人の心情や背景の理解に努め、子どもたちを認める場面を増やすことで、**自尊感情を育成**する。
- ・多様な他者への理解にもつながる個別の人権課題に関する取組等の一層の充実を図り、**多様性の尊重**につながる教育を推進する。
- ・就学前教育と学校教育、社会教育の接続を意識し、「共生社会の実現」に向けて、人権が尊重された地域づくりにつながる取組を推進する。

教育振興基本計画に示された基本目標や政策等と人権教育の推進の方向性を揃えていくことが重要

新プランでの対応点

「自尊感情の育成」と「多様性・包摂性を尊重する教育の推進」について、就学前教育、学校教育、社会教育の各ステージごとの要点(ポイント)を記載